

2023年3月期 決算説明資料

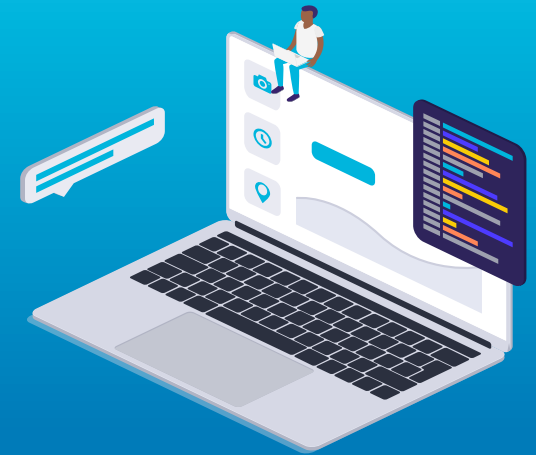
2023年5月12日



目次

- | | |
|-----------------------|------|
| 1. エクゼクティブサマリ | P.3 |
| 2. 決算概況 | P.9 |
| 3. 事業展開振り返り | P.20 |
| 4. 業績見通し | P.25 |
| 5. 成長戦略、ソフトウェアテスト事業環境 | P.34 |
| 6. 当社の優位性 | P.41 |
| 7. 会社概要 | P.45 |

1. エグゼクティブサマリ



エンタープライズ系領域が好調継続で**増収増益**、
採用費、M&A費用、拠点拡張費用も吸収し、**過去最高の業績**

2023年3月期 連結年間累計

売上高

90.5億円

前年同期比 +35.1%

営業利益

9.7億円

+70.1%

親会社株主に帰属する
当期純利益

6.5億円

+57.4%

単価
(ソフトウェアテスト)

740千円

前年同期比 +44千円

稼働エンジニア数
(2023年3月末時点)

1,157名

+229名

案件数

3,868件

+503件

※株式会社ミントを2022年4月より新規連結しております

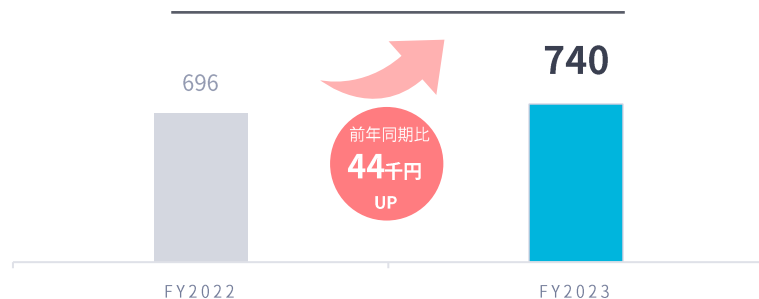
業績ポイント

- ✓ エンタープライズ系領域が堅調に推移
- ✓ DX需要を取り込んだWebサービス案件も堅調に推移
- ✓ 増収に伴い各段階利益も増益
- ✓ 人材採用を通年採用に変更したことにより採用費は増加
- ✓ 拠点拡張費用、M&A取得関連費用の発生

単価、稼働人員数、案件数はいずれも**前年同期比大幅UP**

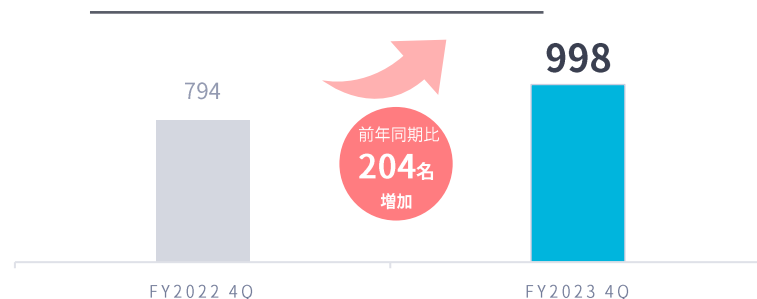
以下の数値はソフトウェアテストセグメントのみとなるため、前ページのエグゼクティブサマリ記載の「稼働人員数」「案件数」の数値が異なります。

単価※1 (千円)



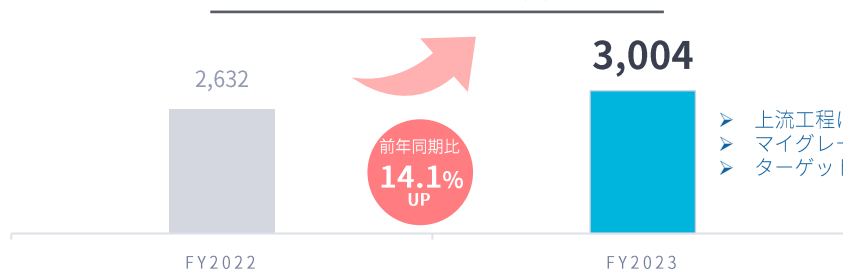
- ▶ エンタープライズ領域の売上割合増加
- ▶ 既存顧客の継続好調
- ▶ テスト自動化導入支援の積極提案

稼働人員数 (名)



- ▶ 応募者数の増加
- ▶ ビジネスパートナーとの関係強化
- ▶ ジョイン企業との連携が順調

案件数 (件)



- ▶ 上流工程にPMO※2・QMO※3として参画多数
- ▶ マイグレーション※4案件の獲得増
- ▶ ターゲット業界のアプローチ好調（金融等）

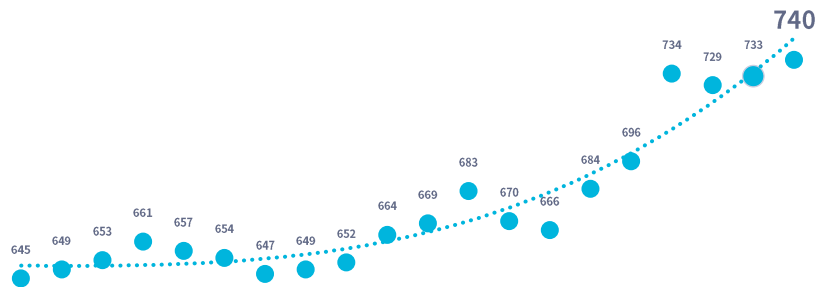
※1 単価（月間）＝ ソフトウェアテストセグメントの売上高 ÷ エンジニア数の延べ人数（正社員+契約社員+ビジネスパートナー）
 ※2 Project Management Officeの略で、組織内における個々のプロジェクトマネジメントの支援を横断的に行う部門や構造システム
 ※3 Quality Management Officeの略で、組織内における個々の品質管理の支援を横断的に行う部門や構造システム
 ※4 ソフトウェアやシステム、データなどを別の環境に移動したり、新しい環境に切り替えたりすること

単価の推移（ソフトウェアテスト）、稼働エンジニア数の推移（連結）

単価**740千円**超、エンジニア数**1,150名**を突破し、継続した成長へ

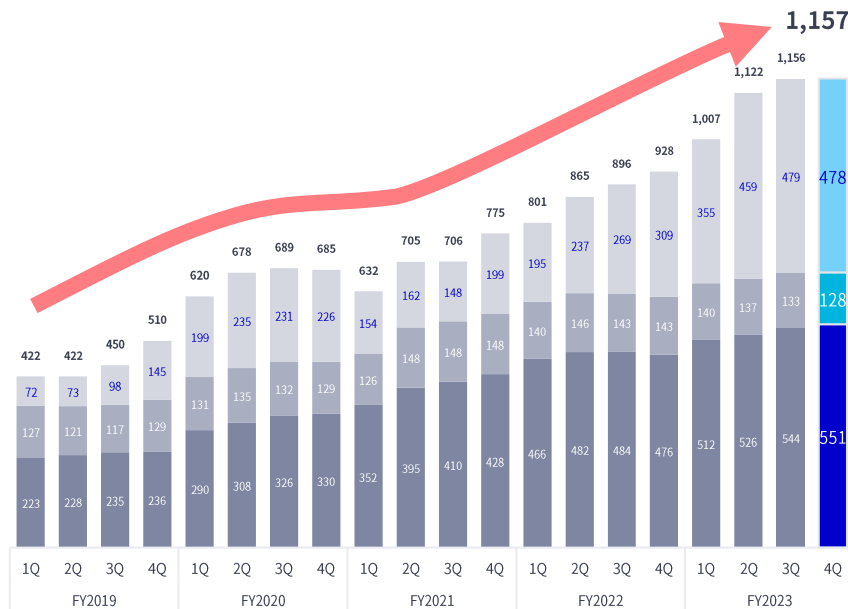
エンジニア1人当たりの売上高（月間）※
（ソフトウェアテスト）

（単位：千円）



稼働エンジニア数（連結）

（単位：名）

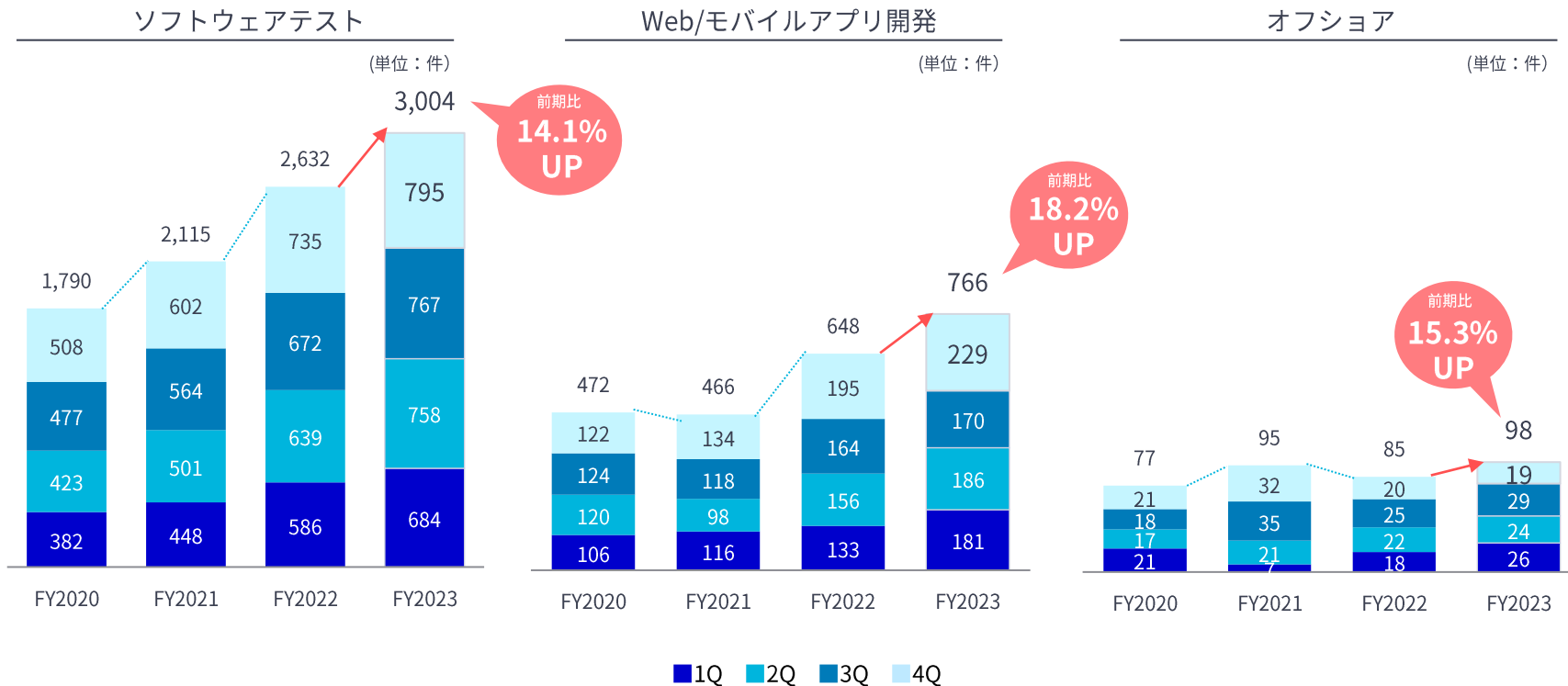


※エンジニア1人当たりの売上高（月間）＝ ソフトウェアテストの売上高 ÷ エンジニア数の延べ人数（正社員+契約社員+ビジネスパートナー）

■正社員 ■契約社員 ■ビジネスパートナー

セグメント別案件数の推移

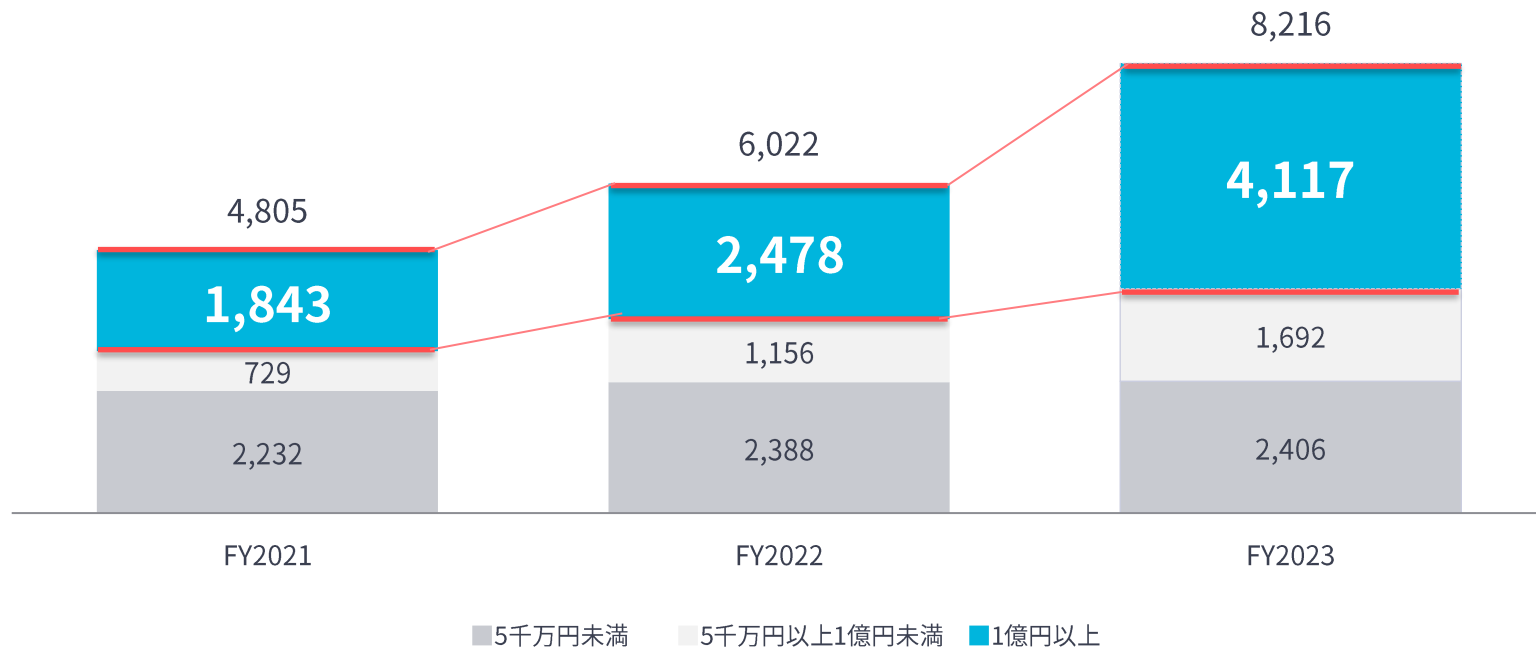
全セグメントが**二桁成長**で増加



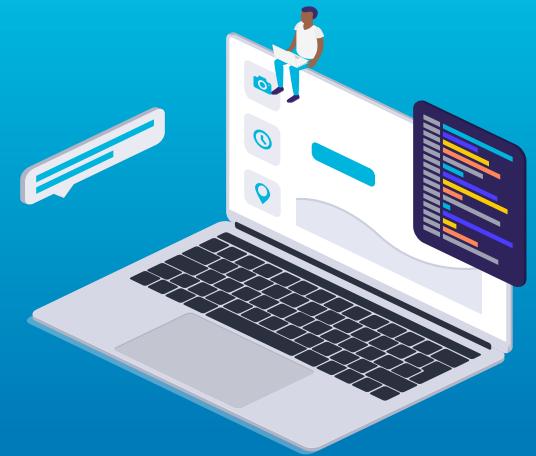
案件の**大型化**が加速、1億円以上がFY2021比**2倍以上**の実績

取引先あたり売上規模別の売上高推移（ソフトウェアテスト）

（単位：百万円）



2. 決算概況



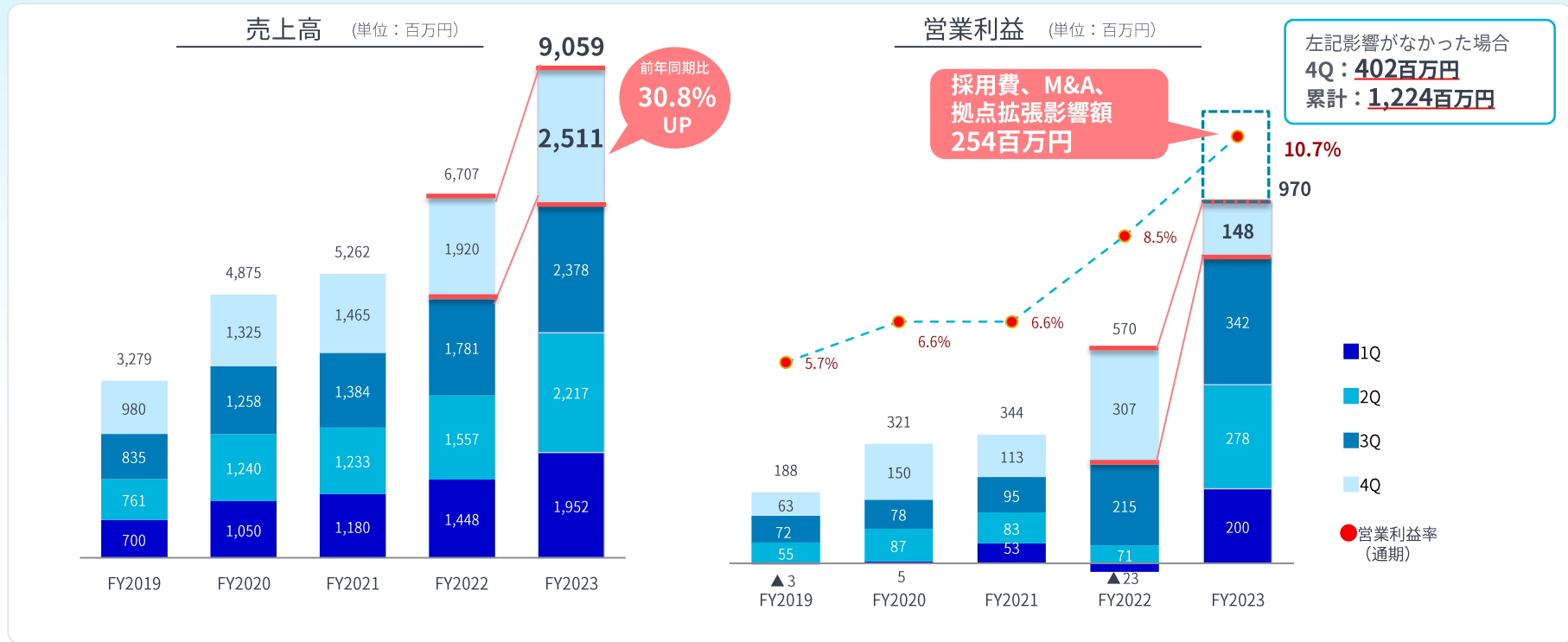
前年同期比 売上高 **+35.1%**、営業利益 **+70.1%** 営業利益率は二桁台

	FY2022		FY2023			
	(百万円)	売上高比 (%)	(百万円)	売上高比 (%)	前年同期比増減 (百万円)	前年同期比 (%)
売上高	6,707	100.0	9,059	100.0	+2,351	+35.1
営業利益	570	8.5	970	10.7	+399	+70.1
経常利益	580	8.6	982	10.9	+402	+69.4
親会社株主に帰属する 当期純利益	413	6.2	651	7.2	+237	+57.4
1株当たり 当期純利益 (円)	60.17		95.83			

売上高、営業利益 四半期推移 (会計期間)

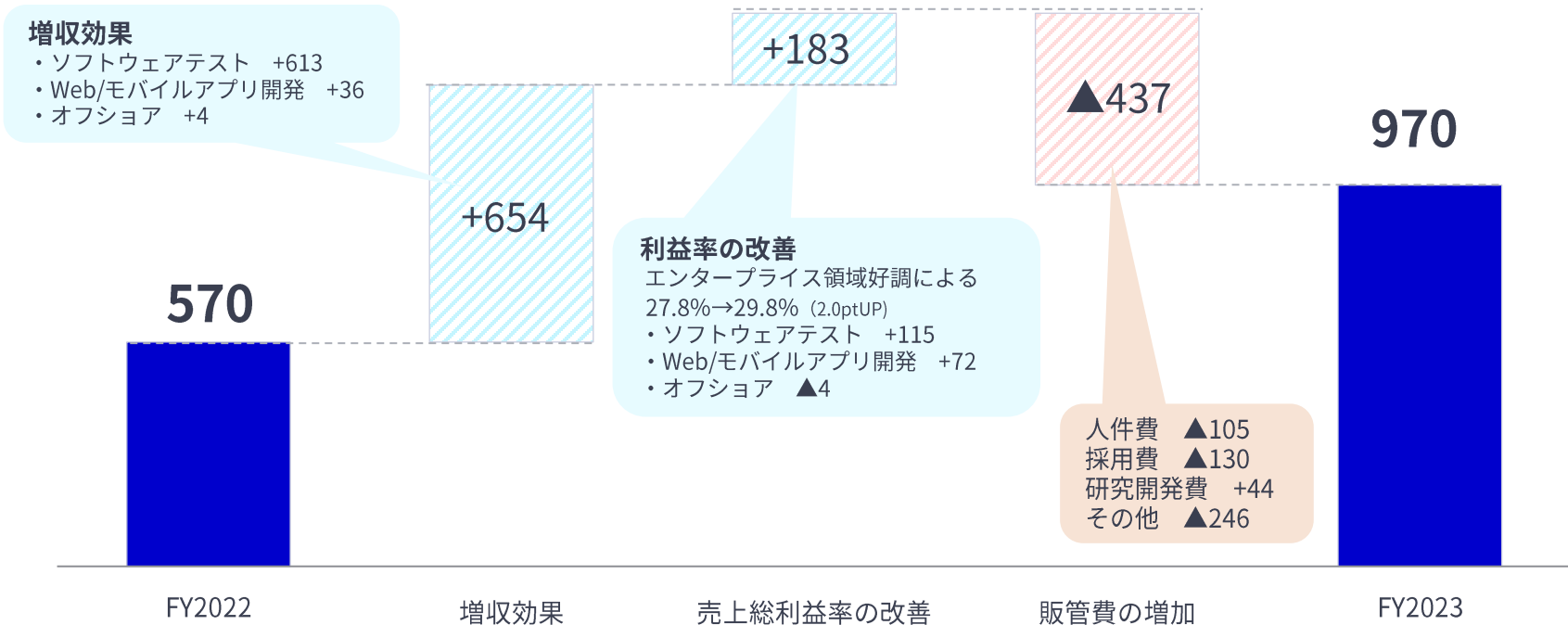
前年同期比 売上高**+30.8%**、四半期として過去最高を更新

営業利益は、採用費、M&A、拠点拡張による影響を除けば**過去最高益**



増収、売上総利益率改善により各種成長投資コストを吸収し大幅増益

(単位：百万円)



	FY2022 4Q単	FY2023 4Q単	FY2022 4Q累計	FY2023 4Q累計	FY2023 4Q累計	
	(百万円)	(百万円)	(百万円)	(百万円)	前年同期比増減 (百万円)	前年同期比 (%)
販管費	346	614	1,295	1,733	+437	+33.8
人件費	149	172	558	664	+105	+19.0
採用費	41	127	173	303	+130	+75.1
研究開発費	12	14	89	45	▲44	▲49.6
その他	143	300	473	719	+246	+51.9
(うちM&A関連費用)	(22)	(98)	(26)	(125)	(+99)	(+377.6)
(うち拠点拡張費用)	(一)	(24)	(一)	(24)	(+24)	(一)

- 人件費 +105 採用担当部門の強化に伴う人数増加、2022年10,11月インフレ特別手当の支給
- 採用費 +130 従来は上半期に偏重していた人材採用を通年採用方式へ変更した影響
- 研究開発費 ▲44 前期はT-DASH（ソフトウェアテスト自動化ツール）等の新規サービス開発に対する先行投資があった
- その他 +246 M&A関連費用の増加（取得関連費用、のれん償却費、PPA費用）、東京及び大阪拠点拡張に伴う内装費用の発生、PR費用の増加、行動制限緩和に伴う出張旅費の増加 等

積極的な採用費投資の成果として、正社員の入社人数は**大幅に増加**

エンジニア+販管部門	FY2022 4Q単	FY2023 4Q単	FY2022 4Q累計	FY2023 4Q累計	FY2023 4Q累計	
	(名)	(名)	(名)	(名)	前年同期比増減 (名)	前年同期比 (%)
総数 (うちエンジニア)	16 (14)	41 (38)	153 (131)	194 (166)	+41 (+35)	+26.8 (+26.7)
採用費 (百万円)	41	127	173	303	+130	+75.1

4月1日 連結正社員入社人数

エンジニア+販管部門	2022/4/1	2023/4/1	2023/4/1	
	(名)	(名)	前年同期比増減 (名)	前年同期比 (%)
総数 (うちエンジニア)	39 (36)	60 (52)	+21 (+35)	+53.8 (+44.4)

(単位：百万円)

	FY2022		FY2023			
	実績		実績		前年同期比	
売上高	6,707		9,059		+35.1%	
ソフトウェアテスト	6,022		8,216		+36.4%	
Web/モバイルアプリ開発	840		1,045		+24.5%	
オフショア	71		86		+19.8%	
セグメント間取引消去及び全社費用	▲227		▲288		-	
営業利益 (利益率)	570	(8.5%)	970	(10.7%)	+70.1%	(+2.2pt)
ソフトウェアテスト	568	(9.4%)	977	(11.9%)	+72.0%	(+2.5pt)
Web/モバイルアプリ開発	70	(8.4%)	71	(6.9%)	+1.6%	(▲1.5pt)
オフショア	10	(14.5%)	0	(0.1%)	▲99.2%	(▲14.4pt)
セグメント間取引消去及び全社費用	▲78		▲78		-	

ソフトウェアテスト 四半期3ヶ月で最高の売上高**22億円**

(単位：百万円)

連結年間売上高

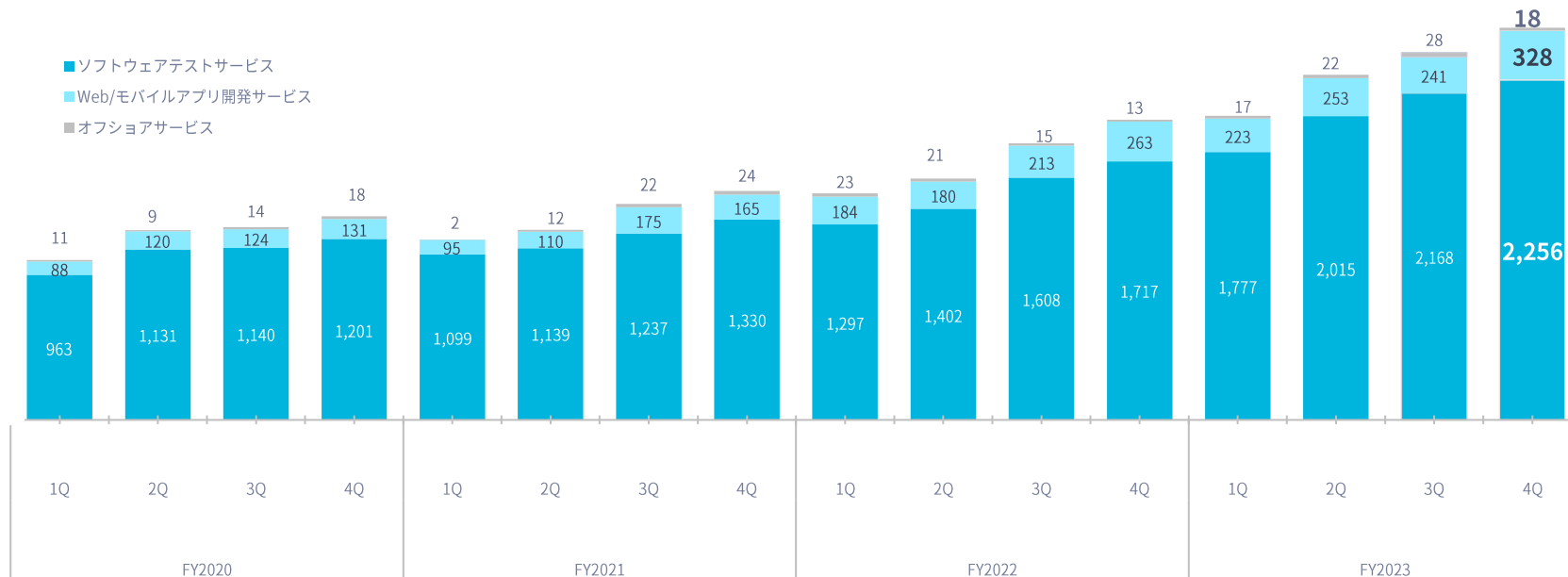
4,875

5,262

6,707

9,059

- ソフトウェアテストサービス
- Web/モバイルアプリ開発サービス
- オフショアサービス



※株式会社ミントを2022年4月より新規連結しております。
 ※各セグメント売上の合計からセグメント間取引消去を調整するため、連結売上合計値とは異なります。

積極投資により**将来収益基盤**の整備を実施

(単位：百万円)

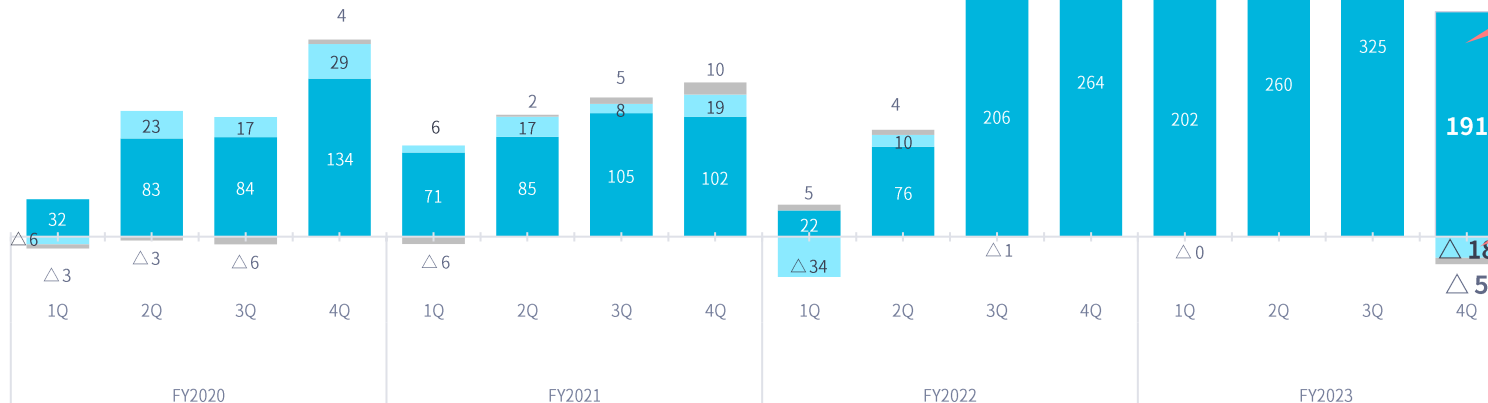
連結年間営業利益 321

344

570

970

- ソフトウェアテストサービス
- Web/モバイルアプリ開発サービス
- オフショアサービス



ソフトウェアテスト採用費増加、拠点拡張費用の発生

Web/モバイルアプリ開発 M&A費用 80百万円

※株式会社ミントを2022年4月より新規連結しております。
 ※各セグメント利益の合計からセグメント間取引消去および全社費用を調整するため、連結営業利益合計値とは異なります。

	FY2022		FY2023			
	(百万円)	売上高比 (%)	(百万円)	売上高比 (%)	前年同期比増減 (百万円)	前年同期比 (%)
売上高	6,707	100.0	9,059	100.0	+2,351	+35.1
売上原価	4,841	72.2	6,356	70.2	+1,514	+31.3
労務費	3,136	46.8	3,451	38.1	+315	+10.1
外注費	1,496	22.3	2,668	29.5	+1,172	+78.4
その他	209	3.1	235	2.6	+26	+12.7
販管費	1,295	19.3	1,733	19.1	+437	+33.8
人件費	558	8.3	664	7.3	+105	+19.0
採用費	173	2.6	303	3.3	+130	+75.1
研究開発費	89	1.3	45	0.5	▲44	▲49.6
その他	473	7.1	719	7.9	+246	+51.9

(単位：百万円)

資産の部	FY2022	FY2023	対前期末
現金及び預金	1,356	1,535	+178
売掛金+契約資産	911	1,208	+297
流動資産合計	2,345	2,894	+548
有形固定資産	89	185	+95
のれん	64	350	+286
ソフト+ソフト仮	133	101	▲31
無形固定資産合計	197	451	+254
投資その他の資産	298	558	+259
固定資産合計	585	1,194	+609
資産合計	2,930	4,089	+1,158

(単位：百万円)

負債の部	FY2022	FY2023	対前期末
買掛金	175	310	+134
短期有利子負債	141	136	▲5
未払金	387	556	+169
流動負債合計	1,159	1,648	+489
長期有利子負債	54	32	▲21
固定負債合計	58	33	▲24
負債合計	1,217	1,682	+464
純資産の部			
株主資本合計	1,713	2,407	+694
純資産合計	1,712	2,406	+693
負債純資産合計	2,930	4,089	+1,158

3. 事業展開振り返り



品質が見えるテスト管理ツール「Quality Tracker」 OPENβ版を4/3に公開



Quality Trackerとは

QualityTrackerは、クラウドベースでテスト実行時の進捗管理、テストケースの管理が可能になるツール。

各テストの進行状況がリアルタイムで表示され、正確な進捗管理が行え、管理者のコスト削減にも大きな効果が期待できます。

Quality Trackerの特長

① より正確な進捗管理

③ テスト実施の効率化

② テストケースの資産化

④ リアルタイム集計

期待効果

管理者の工数の **30%** の削減効果 ※当社プロジェクト実績より

- テストケースの作成状況を把握しやすい
- 進捗に対する問い合わせがなくなった
- テストケースの資産化から、テストケースの垂種の発生を防止といった声が上がっています。

京都工芸繊維大学との産学連携でT-DASH新機能「画像認識」の開発に成功



産学連携の目的

開発手法やプロセスが多様化する昨今、より効率的でビジネスに寄与する開発現場を作るための手段の一つが「テスト自動化」。ただ、属人化の壁が立ちばかり、効果を実感していない企業も多数。

そこで、テスト自動化における脱属人化を目的とし、当社が提供するテスト自動化ツール「T-DASH」を用いて、テスト自動化共同研究の実施に至る。

機能実装前



イメージ画像を要件化し、それを元に作った実装

テストケース

自動テスト実施

要素名、ファイル名、テキスト、id、class、margin、padding、height、width etc...
各種実装の要件

テストケース

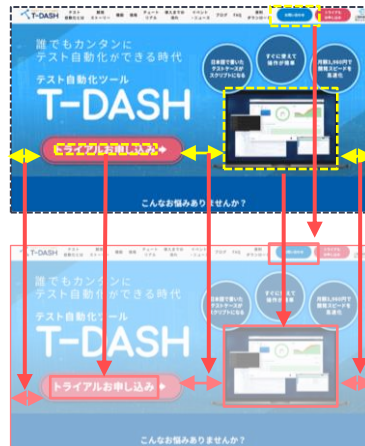
各要素のコードを定義し
テストケース作成

作成されたテストケースで、テストが実行されるため、要件と実装がっているとテストがクリアになる。

機能実装後



- ・オブジェクトレイアウト
- ・ボタン設置位置
- ・テキスト設置位置
- ・マージン間隔
- etc...



T-DASHが画像を認識し、デザインデータからテスト自動化を実行。

イメージ画像と実際のブラウザでの実装を直接比較が可能に。

働きやすい環境整備、従業員**ウェルビーイング**や採用力の向上へ

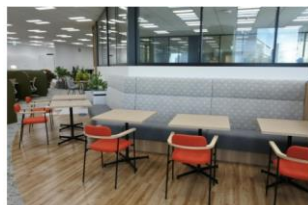


業績向上を機に、さらなる成長を目指し、23年2月、3月に東京本社拡張移転、大阪本社拡張を行いました。

特に東京本社においては、出社したくなるオフィス作りをテーマに、「従業員間のコミュニケーション活性化」に重点をおいたワークスペースやリフレッシュルーム、会議室などを整備。

バーチャルオフィス紹介メディア「バチャナビ」にて、東京本社の360度VRオフィスツアーを公開しています。




URL : <https://vachanavi.com/2023/05/11/valtes/>



営業開始日

東京本社：2023年2月20日 大阪本社：2023年3月1日

知財保有法人との**知見共有**で相互の企業価値向上へ

<p>資本業務提携</p>  <p>FUNDINNO 株式投資型クラウドファンディング</p>	<p>当社が持つ品質・セキュリティの知見を提供 システム品質の改善・向上による登録ユーザー、成約プロジェクトの更なる増加</p>
<p>業務提携</p>  <p>eXmotion ソフトウェア開発コンサルティング</p>	<p><u>車載案件における協業</u> W字モデル※1にUSDM※2およびバルテスのテストナレッジを加えた、改良型プロセスを定義し、<u>上流工程における品質向上サービス</u>を共同提供</p> <p>※1 開発初期（要求定義や設計の段階）から開発フェーズとテストフェーズを同時に並行して進めていくテストモデルのこと ※2 Universal Specification Describing Mannerの略で、正確な要求仕様を定義するための仕様化の技法</p>
<p>出資</p>  <p>between the arts コレクションアイテムマネジメントプラットフォーム</p>	<p>新たな<u>付加価値</u>の創出 アプリ開発、セキュリティサービスとのシナジー強化</p>

4. 業績見通し



過去最高売上、利益を更新見込み

成長に向けた人材投資・制度投資は引き続き積極拡大方針

	FY2023 実績		FY2024 予想			
	(百万円)	売上高比 (%)	(百万円)	売上高比 (%)	対FY2023 増減 (百万円)	対FY2023 (%)
売上高	9,059	100.0	11,178	100.0	+2,118	+23.4
営業利益	970	10.7	1,228	11.0	+258	+26.7
EBITDA※	1,078	11.9	1,390	12.4	+312	+29.0
経常利益	982	10.9	1,233	11.0	+250	+25.5
親会社株主に帰属 する当期純利益	651	7.2	833	7.5	+182	+28.0
1株当たり 当期純利益（円）	95.83		122.15			

※EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却費で算出

業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報や予測等に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想値と大きく異なる可能性があります。

ソフトウェアテスト

(エンタープライズ案件、WEBサービス/組込み系案件、小売り系案件等)

エンタープライズ案件の拡大・深化 更なる案件大型化・単価上昇



大型案件の上流工程
からPMO※1・QMO※2
としての参画増加、
単価上昇へ



金融業界など
ターゲット業種の
受注拡大



マイグレーション案件
の受注獲得



Webサービス案件の
受注拡大



自社開発ツール間の
連携強化
社内活用による業務
付加価値の向上



M & Aの強化



正社員採用部門の
機能強化



ビジネスパートナー
獲得の活動強化

※1 Project Management Officeの略で、組織内における個々のプロジェクトマネジメントの支援を横断的に行う部門や構造システム

※2 Quality Management Officeの略で、組織内における個々の品質管理の支援を横断的に行う部門や構造システム

Webモバイルアプリ開発

(アプリ開発、システム開発、セキュリティ診断)

セキュリティ事業拡大、
新規技術を積極導入し高品質な開発を



セキュリティ需要の
取込み加速



高品質な開発により
単価の上昇へ



メタバースを
利用した
新サービスの開発



事業拡大に向けた
人材育成

オフショア

(オフショアテスト、オフショア開発)

エンジニアの教育を継続し品質向上
「Japan Qualityを世界へ」



現地日系企業との
取引拡大へ



積極採用とグループ
一体の教育を継続



エンジニアのスキル
向上で単価上昇へ



自社開発ツール利用
の促進

更なる**経営基盤の強化**と**企業価値の向上**へ

金融業界特化型パッケージシステム開発



大手ネット証券企業を中心とした開発・販売実績
開発・保守・運用までほぼ自社でカバー
高いストック事業比率（保守・運用等）



テスト・品質向上支援



エンタープライズ領域の拡大に注力
ユーザー企業からの直接受注・QCD管理/支援実績
開発事業やオフショア事業も順調に拡大

双方の金融業界における専門的知識及びナレッジの向上
グループサービス全般の単価向上や参入障壁の構築へ

持続的な成長を実現するため、経営資源の最適化を推進



グループの持続的成長に向けて積極投資を継続

売上高**100億円**達成と
新ビジョンの策定



グループ全体の
持続的**事業拡大**



プライム市場上場を
見据えた体制構築

PRIME

① 継続的**事業拡大**に向け**人材採用投資**継続

- ・採用チーム運用の組織化で採用効率化
- ・採用広報チームの充実で採用広告拡大、採用HPの刷新
- ・各種採用施策の充実
- ・ビジネスパートナー採用チーム・制度の拡充

③ **マーケティング**強化

- ・T-DASH※及びPrime WAF※等サブスクリプション型自社開発ツールの拡販・普及投資

※ T-DASH及びPrime WAFのご紹介は52ページにございます

② **グループ**拡大に向けた**組織体制強化投資**

- ・プライム市場上場に向けたグループガバナンス整備のための諸制度投資
- ・さらなる成長のための中期経営計画策定と重点施策投資
- ・ホールディングス化を前提に、M&Aやグループ拡大に適した体制強化投資（グループイン企業の自律的成長を後押し）

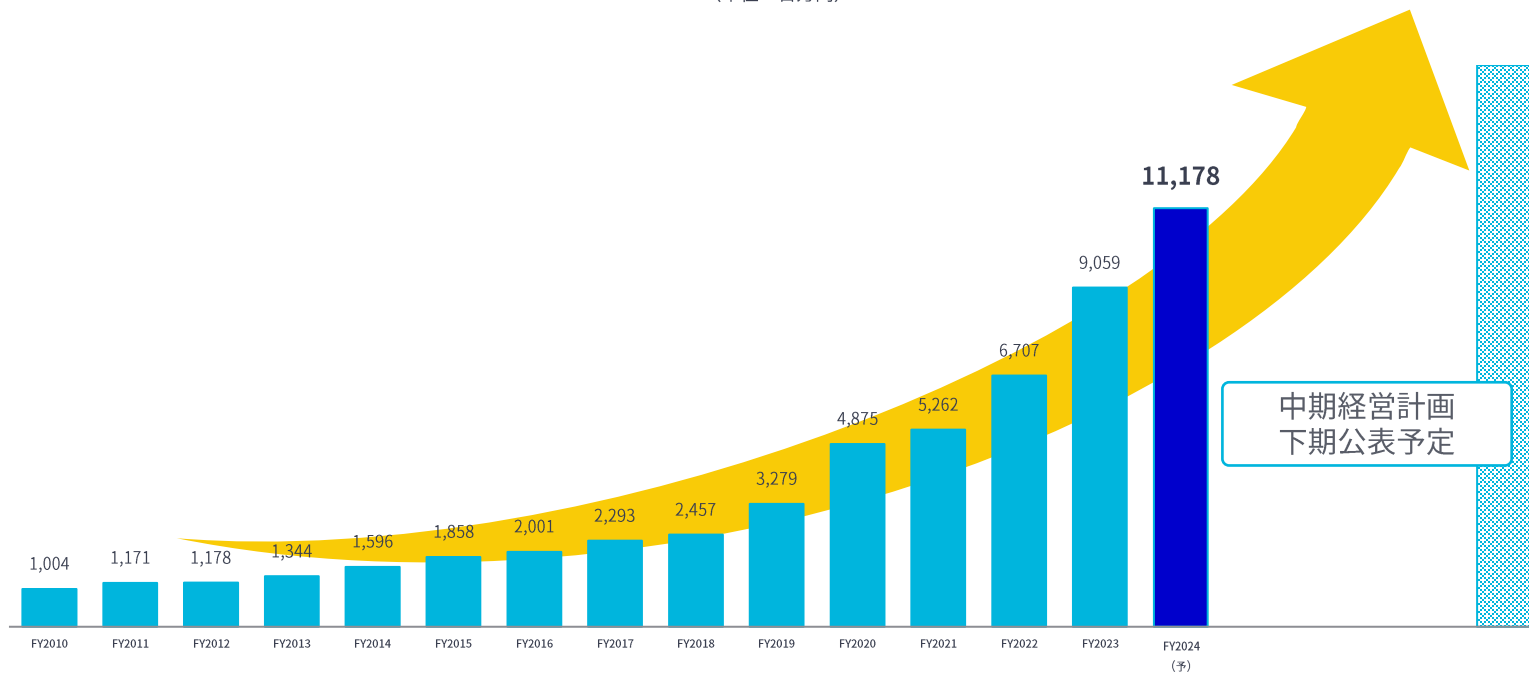
④ **働きやすい環境**整備

- ・従業員の労働環境向上と業務拡大対応のための各拠点環境整備投資

FY2024に売上高**100億円突破**、中期経営計画を下期公表予定

売上高の推移

(単位：百万円)





世に出るソフトウェアの品質をより向上させていきたいという思いで、バルテスを立ち上げたのが、2004年4月です。

当社は、2023年4月19日をもちまして創業20年目を迎えました。

これもひとえに株主様をはじめとするステークホルダーの皆様の長年にわたるご支援、ご高配の賜物と心より御礼申し上げます。

つきましては株主の皆様へ感謝の意を表するとともに、当社グループの更なる発展に向けた決意を込めて、翌年2024年3月期の期末配当におきまして、1株当たり12円の創業20周年記念配当を実施する方針を決定いたしました。

また今後も順調な利益成長が見込めることから、株主の皆様への安定・継続的な還元のために、普通配当に関しても前向きに検討して参ります。

創業20周年記念配当 1株当たり 12円

5. 成長戦略、 ソフトウェアテスト事業環境



4つの基本戦略と投資コントロールで**規模成長**と**高利益率**を両立

① 人的資本への投資

- ・積極的、計画的な人材採用
- ・未経験人材の早期戦力化
- ・キャリア人材の高スキル化
- ・外部人材の有効活用

成長を持続

② エンタープライズ領域拡大

- ・専門部署の設置
- ・ハイレイヤーの採用
- ・外部との協業
- ・ナレッジ蓄積

利益率向上、
参入障壁構築

③ 知的財産の拡大

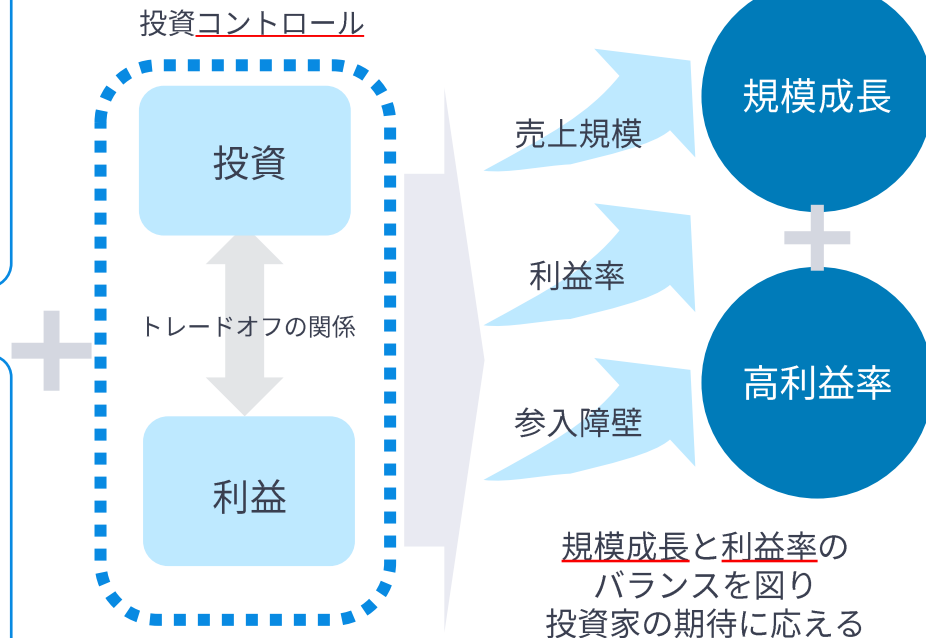
- ・テスト・教育ノウハウ蓄積
- ・ナレッジ蓄積
- ・新規技術の開発
- ・新技術企業への投資・協業

参入障壁構築、
新たな価値創造

④ M&Aと組織強化

- ・既存領域のM&A
- ・ポートフォリオの多様化
- ・M&A組織体制の最適化
- ・グループガバナンスの向上

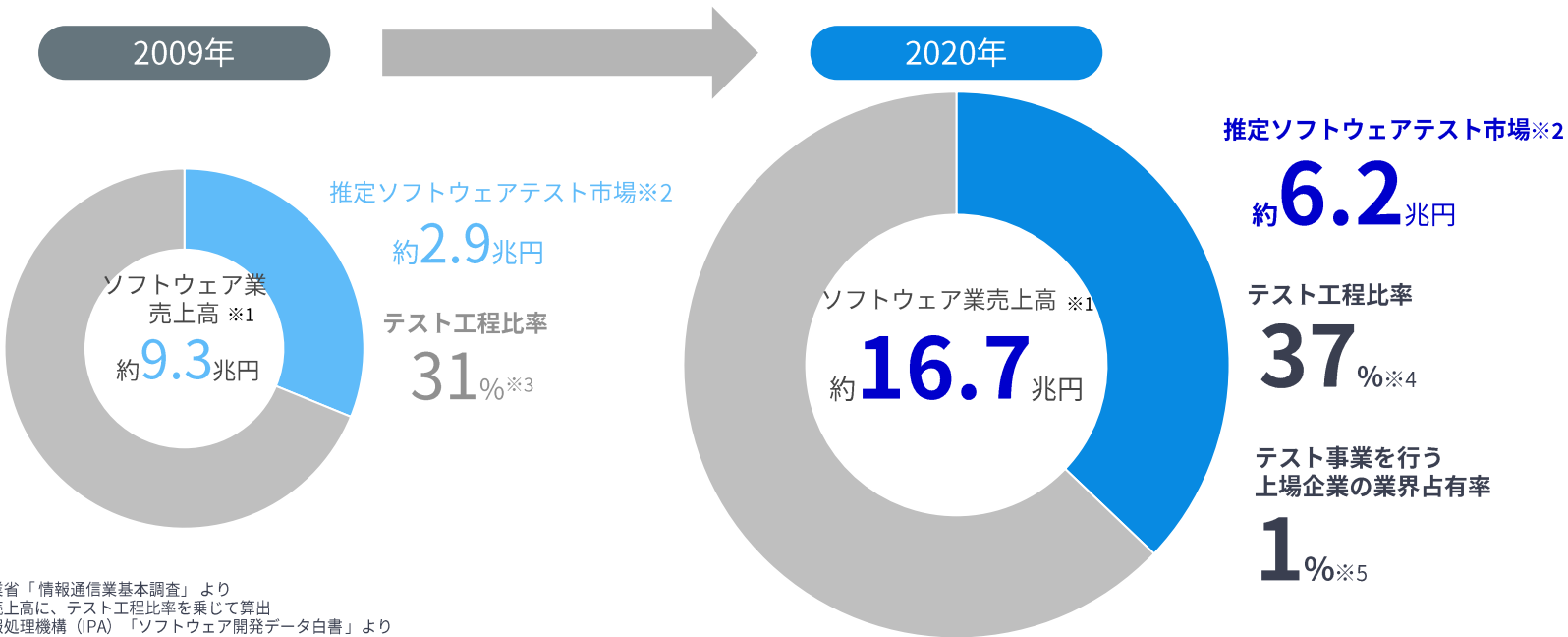
売上、企業価値、
環境変化対応力向上



詳細につきましては、2022年6月28日に公表いたしました「事業計画及び成長可能性に関する説明資料」を下記のURLよりご参照ください。
<https://ssl4.eir-parts.net/doc/4442/tdnet/2149176/00.pdf>
 また、更新版を2023年6月下旬に公表する予定です。

当社が推定する日本のソフトウェアテストの市場規模は**約6.2兆円**

ソフトウェア業売上高に占めるテスト工程比率の推移と市場規模推計



※1 総務省・経済産業省「情報通信業基本調査」より
※2 ソフトウェア業売上高に、テスト工程比率を乗じて算出
※3 独立行政法人情報処理機構（IPA）「ソフトウェア開発データ白書」より
※4 独立行政法人情報処理機構（IPA）「ソフトウェア開発分析データ集2020」より
※5 テスト・デバック事業をメインとする上場企業の売上合計より

ターゲット業界の高いCAGR、ソフトウェアテスト市場も**CAGR12.4%**

	市場規模			CAGR	出所
エンタープライズIT	国内	2024年	12.8兆円	3.4%	IDC Japan 国内エンタープライズIT市場予測
AI	国内	2025年	4,910億円	25.5%	IDC Japan 国内AIシステム市場予測
メタバース	世界	2024年	7,833億ドル	13.1%	Bloomberg https://www.bloomberg.com/professional/blog/metaverse-may-be-800-billion-market-next-tech-platform/
Web/E コマース	世界	2024年	4.9兆ドル	20.7%	eMarketer, Dec2016 経済産業省「平成29年度我が国におけるデータ駆動型社会に係る基盤整備」（電子商取引に関する市場調査） 世界のBtoC電子商取引市場規模の推移
IoT	国内	2025年	10.2兆円	10.1%	IDC Japan 国内IoT市場 支出額予測
車載ソフトウェア	国内	2025年	1.1兆円	4.5%	矢野経済研究所 車載ソフトウェア市場に関する調査

その他、国内外のソフトウェアテストが関係する業界の市場規模を合わせ、世界全体での可能性

<u>ソフトウェアテスト</u>	世界	2025年	344.9億ドル	12.4%	Technavio Software Testing Services Market by Product, Geography, and End-user - Forecast and Analysis 2021-2025
------------------	----	-------	----------	-------	---

「官民一体のデジタル化」 「生活様式の多様化」 「サイバー攻撃の増加」

DXが加速、セキュリティ対策需要も増大

生活様式の多様化

- ・テレワークの定着
- ・EC消費の定着
- ・オンラインコミュニケーションの定着
- ・余暇時間の増加

官民一体のデジタル化

- ・国/自治体のシステムの統一
- ・行政のオンライン化
- ・品質意識の向上

サイバー攻撃の増加

- ・身代金目的のサイバー攻撃増加
- ・日本の大企業の多くがサイバーセキュリティ対策不十分

デジタルトランスフォーメーション (DX) 加速

2.セキュリティリスク増

セキュリティサービス
需要の増加



1.ソフトウェア開発

エンタープライズ領域の
ソフトウェアテスト
需要の増加



3.人材不足

人材不足を解消する
手立てがカギ



ソフトウェア開発企業の悩み

- コスト 高な開発エンジニアの労働時間の約4割がテスト・検証に割かれる
- テスト工程は開発者のモチベーションが上がらず、非効率
- 開発者自身がテスト・検証を行うのは客観性が無く信頼性に欠ける

テスト工程がアウトソースされなかった理由

- 大手SIerが案件を一括受注し、傘下の下請け・孫請けに発注。その開発エンジニアがテスト工程まで行う構造であった。

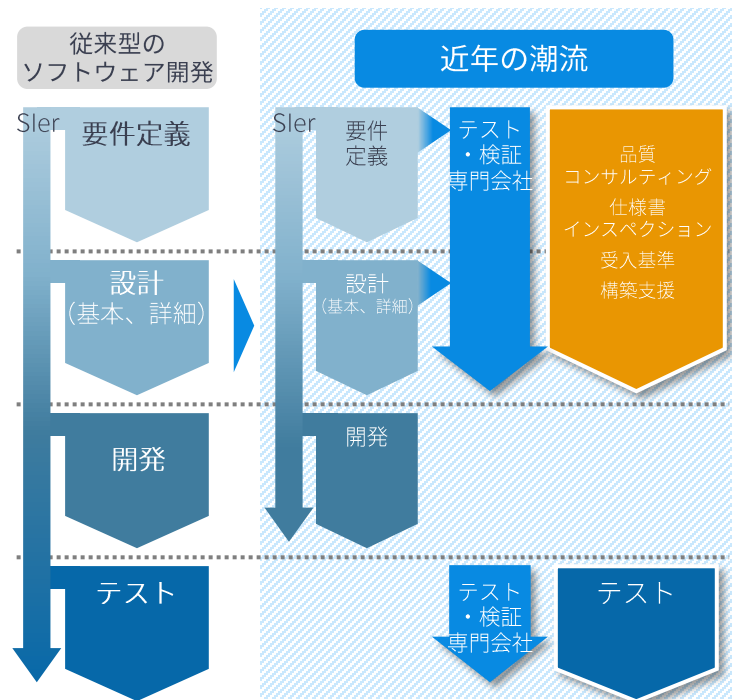


テスト工程のアウトソース化が加速！

- 開発担当者によるテスト時間の短縮により、開発コストが減少（開発担当者がテストを実施する場合の※60%~70%程度で対応可）※当社調べ
- 再現性・共有性の高いテストの方法論（各社独自のメソッド）が確立することで網羅的で高効率なテストが実現可能に
- 第三者のテスト専門会社によるテスト・検証の有効性が注目

ソフトウェアテストは 開発企業からテスト専門企業へ

ソフトウェア開発の業務フローの変遷



ユーザー企業からの受入テストの増加

背景

- 各社がDX投資を推進（2018年に経済産業省が推進を提唱）
- 旧システムのマイグレーション、パッケージシステムの導入が増加。ユーザー企業から開発会社への発注増
- DX推進により、4年で約1.2兆円の市場規模拡大（ソフトウェア業売上高）



ユーザー企業の悩み

- プロジェクトの品質が心配（技術スキルでSlerと対峙できない）
- 発注しているSler・開発会社の手戻り工数が多い
- ユーザー企業の人員不足（受入テスト時に要員確保が出来ない）



品質管理の第三者機関として、バルテスがユーザー企業をサポート

当社の立ち位置と支援項目



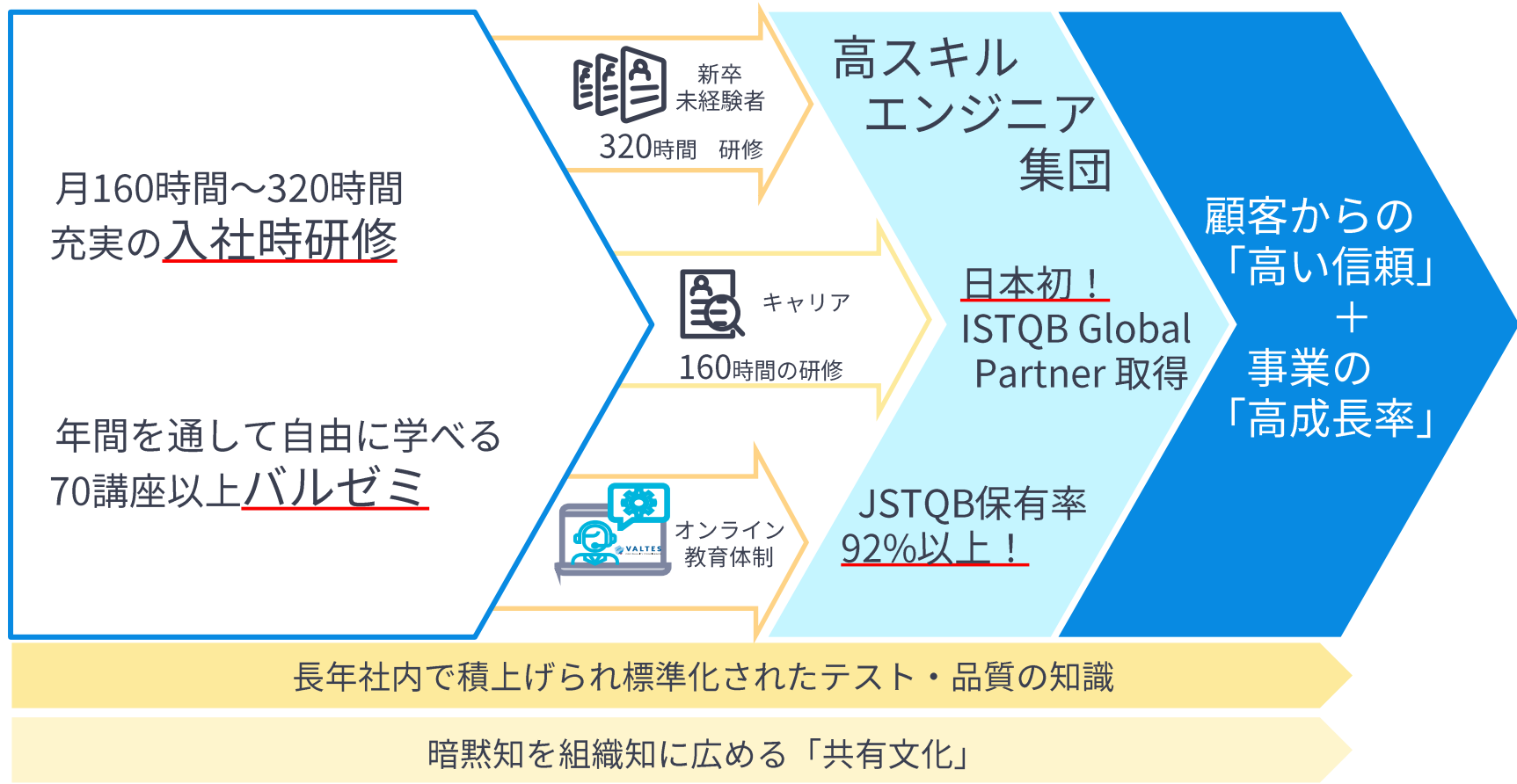
- 受入テストの上流工程支援（次フェーズへの移行基準・リスクの洗い出し等）
- 総合テスト支援および品質管理提案（Sler・開発会社への提案をユーザー企業と実施）

当社がQCD※を管理・支援
ユーザー企業からの依頼が増加中

※QCD：Quality(品質)・Cost(コスト)・Delivery(納期)の頭文字をとった用語

6. 当社の優位性



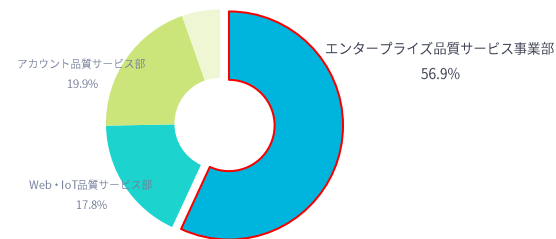


エンタープライズ領域の特徴

- 単価 **高** 案件規模 **大** 契約期間 **長**
- 開発、業務知識等、テスト以外の知識を求められる → 難易度 **高**
- マイグレーション等※の増加で市場は**拡大**

※ソフトウェアやハードウェア、システム、データ、開発言語などを別のプラットフォームに移行したり、新しいシステムに切り替えたりすること

部署別売上高構成比 FY2023



ソフトウェアテスト売上全体の **50%** を占めるまでに成長

当社の優位性

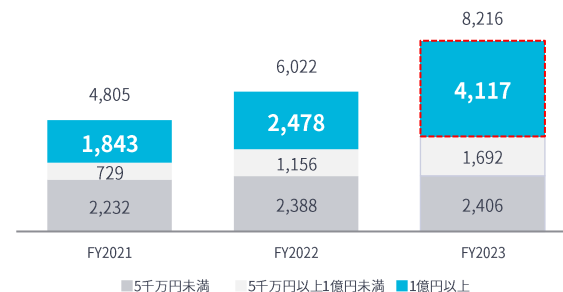
エンタープライズ専門部署を2020年4月に設立
組織体制の強化により専門性が向上



- 専門部署による組織的対応 • 経験豊富なハイレイヤーの採用
- 本領域に強い人材を供給可能な外部協力会社との取引拡大
- 質、量ともに豊富な当社のテストノウハウ
- 上流工程からの品質支援ニーズに対応

取引先あたり売上規模別の売上高推移 (ソフトウェアテスト)

(単位: 百万円)



案件の大型化が進む

サイバー攻撃増加

- 企業へのアタック増加
- 企業の多くがサイバーセキュリティ対策不十分



個人情報取得



サイト改ざん



不正ログイン



セキュリティ・脆弱性診断サービス

脆弱性の可視化・治療

- ハッキング等の脆弱性を確認する
診断サービス+脆弱性向上のための対策アドバイス
- 直近4年CAGR 30.3%と順調に拡大



攻撃可視化・防御ツール「Prime WAF」

攻撃に対する防御

- 初期費用0円で導入可能
- サイバー攻撃を可視化、その攻撃のみをブロック
- 分かりやすいUIで、攻撃防御の「結果」が明確
- 低コスト、カンタン導入で中小企業も利用可能

サイバー攻撃に関し、点ではなく線で対策を行う
セキュリティサービスが提供可能に

7. 会社概要



「品質向上のトータルサポート企業」を経営方針に掲げ、事業を展開

会社名	バルテス株式会社
会社設立	2004年4月
上場	2019年5月 東証マザーズ (現 東証グロース 証券コード：4442)
本社住所	大阪市西区阿波座1-3-15 (大阪本社)
事業内容	ソフトウェアテストサービス 品質コンサルティングサービス ソフトウェア品質教育サービス セキュリティ・脆弱性診断サービス
子会社	バルテス・モバイルテクノロジー株式会社 株式会社アール・エス・アール 株式会社ミント 株式会社シンフォー (2023年4月子会社化) VALTES Advanced Technology, Inc. (Philippines) バルテス分割準備株式会社 (2023年4月設立)
従業員数	789名 (2023年3月末 グループ5社計)
内、総エンジニア数	679名 (2023年3月末 グループ5社計)
総資産	4,089百万円 (2023年3月末 グループ5社連結)



代表取締役社長

田中 真史
Tanaka Shinji



私たちは品質にコミットし、安心・安全なICT社会の実現に貢献します。



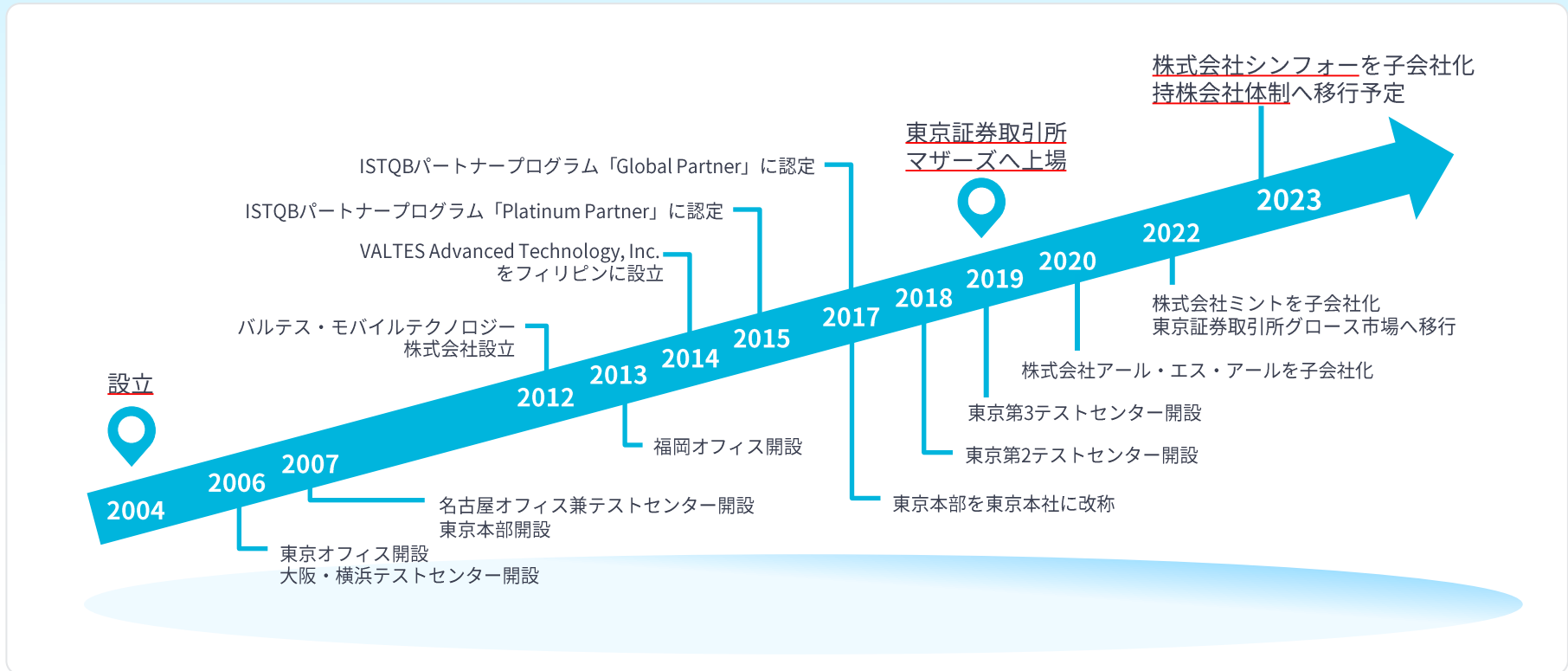
私たちはICT社会に貢献する人材を育成します。

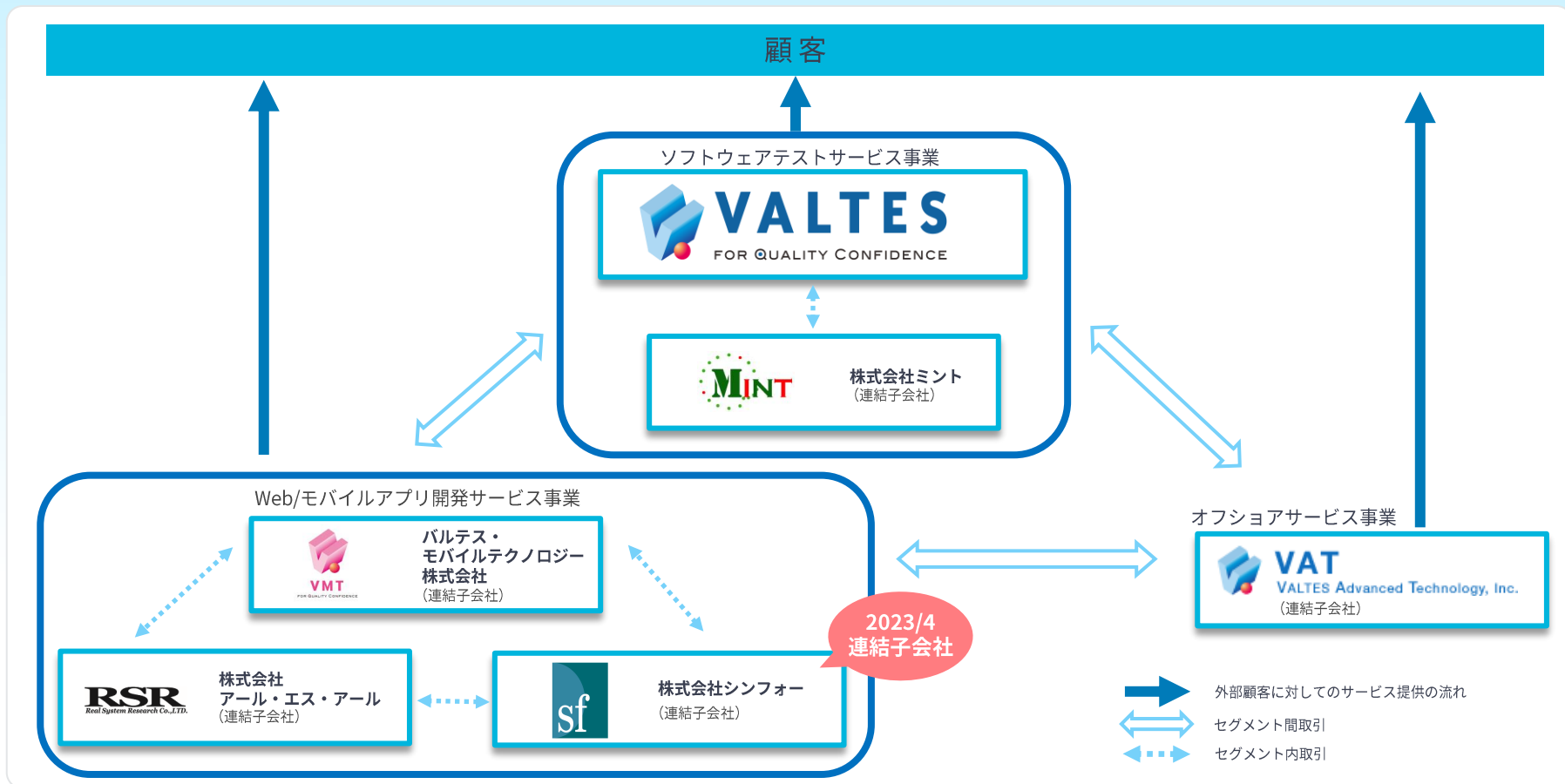


私たちは多くの価値を創り、お客様と共に喜びを分かち合います。

2004年4月、設立。ソフトウェア品質に関わるサービスを提供。

ソフトウェアテスト専門会社として、**年間3,000件以上**のプロジェクト実績





高スキル エンジニア

- エンジニア適正試験
 - 独自の研修カリキュラムによる早期戦力化
 - JSTQB※1保有率92%以上！（入社2年目以降の正社員）
 - ISTQB※2 Global Partner
- ※全世界7社のみ、日本初！

豊富な実績

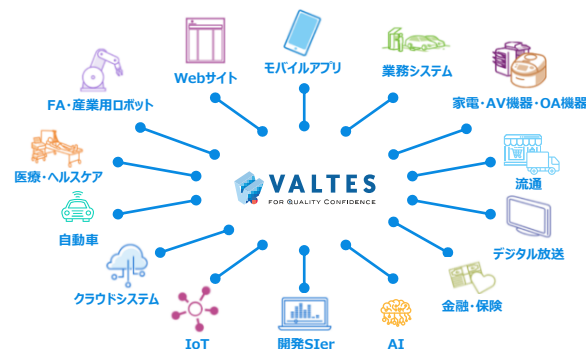
- 業種毎の豊富なテスト観点
- 年間約3,000プロジェクト、1,000社以上の導入実績

標準化・ プロセス

- ISO/IEC/IEEE 29119※3準拠テンプレート
- QUINTEE※4（テストの進行基準）
- 標準化されたテスト設計手法による
抜け漏れ・誤認識を排除



日本で初のグローバルパートナー



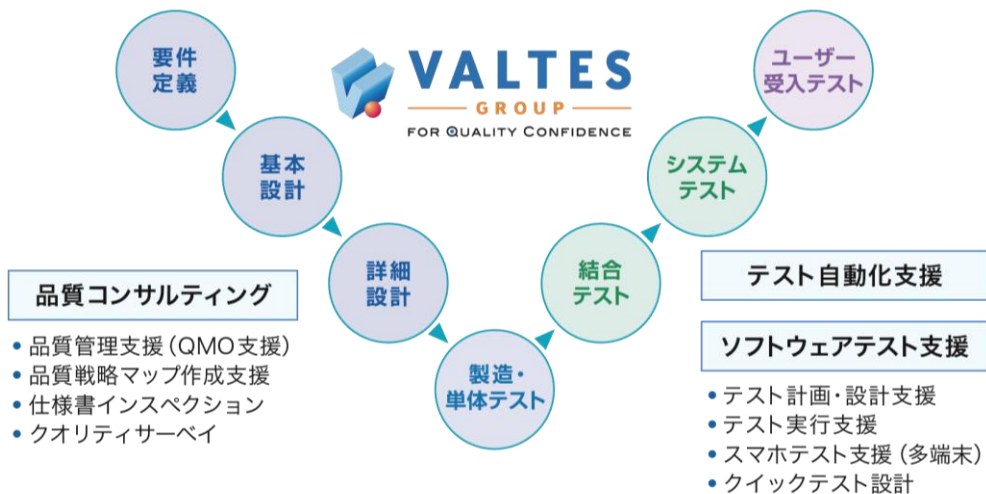
※1：JSTQB(Japan Software Testing Qualifications Board)とは、国内のソフトウェアテスト技術者認定組織のこと

※2：ISTQB(International Software Testing Qualifications Board)とは、世界130カ国のテスト技術者認定組織のこと

※3：ISO/IEC/IEEE 29119とは、ソフトウェアテストの統合的な国際規格のこと。ISO、IEC、IEEEという3つの標準化団体が合同で策定しているため、この名称で呼ばれる

※4：QUINTEEとは、当社がソフトウェアテストを主軸に、品質向上・生産性向上に関連する知見を体系化したもの

ソフトウェア開発の全工程で、ソフトウェア品質向上支援サービスを提供



マイグレーションテスト支援

非機能要求

アジャイル開発テスト支援

- 脆弱性診断 (Web/ モバイル/ IoT)
- パフォーマンステスト

DX支援

- AIプロダクト品質向上支援
- ローコード品質向上支援

品質教育

- 企業向け講座
- オープン講座
- eラーニング

テストツール



テスト自動化ツール



クラウドで実機テスト



テスト管理ツール



サイバー攻撃可視化ツール

当社サービス一覧

1 テスト情報プラットフォーム「Qbook」

ソフトウェア品質向上のためのプラットフォーム。バルテスが培ってきたテスト・品質向上ノウハウを無料で提供



4 いつでもどこでも実機テスト「AnyTest」

クラウド上で実機を遠隔操作
豊富な機種・OSのラインナップ
リモートなのにラグのない操作感



2 テスト自動化ツール「T-DASH」

非エンジニアでも“カンタン”に
Webアプリケーションの
動作確認・検証を可能にする
テスト自動化ツール



5 品質が見えるテスト管理「Quality Tracker」

テスト実行時の進捗管理と
テストケースの管理がこれ一つで
見える化

2023/4
OPENβ
ローンチ



3 従量制のクラウド型WAF「PrimeWAF」

簡単・低価格で導入可能な
クラウド型のWAFサービス
様々なサイバー攻撃から
Webサイトを防御



出資法人一覧

<p>1</p>	<p>株式会社カラーアンドデコ 3D・VRを利用したインテリア空間・デザインサービスを提供</p>	
<p>2</p>	<p>ICheck株式会社 PCR検査キット事業や健康プラットフォーム事業を提供</p>	
<p>3</p>	<p>株式会社FUNDINNO 国内最大級の株式投資型クラウドファンディングサービスのプラットフォームを展開</p>	 <p>2022/4 出資</p>
<p>4</p>	<p>株式会社between the arts アートや時計、ワインなどコレクションアイテムの投資・管理運用・売買をサポートするプラットフォームを展開</p>	 <p>2023/3 出資</p>

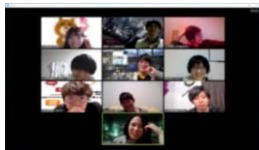
働きやすい環境の整備



- ・男性育休制度導入
- ・働き方改革
- ・ホワイト企業認定 ゴールドランク取得
- ・産業保健師制度導入
- ・必要に応じて、抗原検査キットやPCR検査を従業員に無償提供
- ・パートナーシップ制度の導入
- ・社外監査役として女性役員の就任



▲育休実績のある男性社員のインタビュー記事を、社内でも積極的に展開し、取得を推奨



▲オンライン懇親会制度などを設けて在宅勤務社員のフォローも実施

IT人材の創出



- ・充実した社内研修システム
- ・当社のソフトウェアテストノウハウを生かした資格支援サービスの提供
- ・ソフトウェアテストに関する技術書籍の出版
- ・ソフトウェア品質向上プラットフォーム「Qbook」の運営
- ・テスト技術をゼロから学べる無料eラーニングコンテンツの公開



▲未経験者は2カ月、経験者でも1カ月の入社時研修を実施

技術革新の拡大を図る



- ・京都工芸繊維大学との共同研究論文の発表や「T-DASH」を用いたテスト自動化の共同研究の実施
- ・ソフトウェア製品の品質確保のために世界中の企業とパートナーを組むことで目標達成を実現

安心・安全なまちづくり



- ・ソフトウェア製品のテストを実施し品質を確保することで、安心・安全なICT社会を実現

ご留意事項

本資料には、当社グループの現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
これらの将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに
当社が計画・予想したものであります。

実際の業績などは、今後の様々な条件・要素により、この計画・予想などとは異なる場合があります、
この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。
なお、この資料への公認会計士、監査法人の関与はございません。



